

## 豪華客船「ボイジャー」きょう入港

## 室蘭の記念 乗客に

## 海星高生がグッズ販売



「海星グッズ」第2弾を製作した生徒たち。きょう室蘭港に入港する「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」の乗船客に販売する

室蘭・海星学院高校(香川謙二校長、2336人)の生徒がオリジナルの「海星グッズ」第2弾を製作し、きょう29日に室蘭港に入港する豪華客船「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」の乗船客に販売する。生徒たちは「室蘭らしい土産物になった。英語でのコミュニケーションを積極的にを行い、たくさん販売したい」と意欲を見ている。  
(成田真梨子)

この取り組みは昨年に続き2年目。同校生徒は、豪華客船入港時に行っている通訳ボランティアに加えて「高校生らしいアイデアで乗船客の思い出に残る土産物を作ろう」と発奮。今回は2年生14人が参加を申し出て準備を進めてきた。生徒たちは高校生が商品の仕入れ・販売などを体験する「高校生チャレンジ・ショッピングむろらん」(室蘭商工会議所主催)で学んだノウハウを生かし、3チームに分かれて模擬会社を設立。各チームは同校からの「出資金」5万円の範囲でデザイン考案や商品発注などを行い、利益確保も目指す。どのチームが一番利益を上げるかを競い、決算報告までする本格派だ。グッズは室蘭やきとりのイラストをデザインしたユニークなTシャツ(一枚2700円)、室蘭工場夜景などを収めたポストカード(3枚セット500円)、マリンデザインがポイント

英語駆使し売り込み  
商売の大変さも体験

のマフラータオル(1500円)、ツツジや白鳥大橋、いかりを組み合わせたおしやれなコースター(4枚1500円)の4種類。上田咲也佳さんは「グッズの内容や、利益を考えて値段を決めるのが大変でした」と苦勞を語る。乗船客約3200人のほとんどが中国人。生徒たちは「自分から積極的に話しかけて売り上げを伸ばしたい」「英語でのコミュニケーションを楽しみたい」とやる気十分。前回はコースターが好評で室蘭市民も購入していたという。当日は1年生15人も乗船客に「室蘭の印象」「どんな土産物が欲しいか」などをアンケート調査する。今回の活動を担当する国際理解教育部の山根洋部長は「物売る難しさや楽しさを体験してほしい。黙って待っていても素通りされてしまうので、積極的にコミュニケーションを取ってほしい」と話している。グッズは崎守ふ頭で販売する。時間は午後1時〜3時を予定。9月12日、同ふ頭に「マリナー・オブ・ザ・シーズ」が入港する際もグッズの販売を行う。